

「第4回介護と医療の座談会」を開催しました



平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

北坂戸訪問看護ステーションでは、第4回となります「介護と医療の座談会」を開催致しました。

コロナ禍以降、まだまだ対面でゆっくりとお話しする機会が減っている中、日頃の業務の中で疑問に思っていること、聞きたいことを話し合う場を設けたいと考え開催させていただきました。交流を通して連携を取りやすい関係を構築し、利用者様へより質の高い在宅療養を提供することができると思っています。

今回は「コロナ禍を振り返って」というテーマで意見交換をさせていただきました。

5類感染症への移行で変わった対応や対策、コロナ感染症だけでなくインフルエンザが拡大する中での各事業所ごとの対応について

→ご利用者への訪問について

5類感染症移行も、ご利用者、同居家族の感染（疑い）がある場合は、基本的に訪問を中止している。

ご利用者のケア、介助は同居家族に依頼し原則訪問サービスを中止にしているが、独居の場合等で対応は変わる。

→職員の勤務について

感染者と接触があった場合、毎日の抗原検査を実施し陰性を確認の上で勤務している。

陽性の場合、5日間の休みに加え、1週間程度は訪問を控えている

→ADLの変化について

コロナ禍では感染し入院すると、長期化、隔離、面会も出来なかったため、ADL、認知面の低下がみられた方が多かった。

退院後、転倒が増えたり、自立でトイレに行けてた方がオムツ対応となった方もいらっしゃったがデイサービス等の回数を以前より増やし、ADLが以前の水準まで戻った方もおられた。

今後もコロナやインフルエンザ等感染症の拡大は起こるので、事業所同士の連携は重要となると思われます。

また、座談会の最後にはBCP(事業継続計画)の話も出て意見交換をしました。

来年3月末までにBCPの策定が義務化されるにあたり、感染症をはじめ、災害対策についても医療、介護の垣根なく事業所間での情報共有や密な連携体制の構築が早急に必要となり、当ステーションの課題でもあります。

地域を支える医療機関、事業所として今後とも地域の方々と積極的に連携を図っていきたいと思います。

～座談会を終えて～

お忙しい中ご参加いただきありがとうございました。

高齢の方が入院するだけでも、認知機能やADLが低下が見られますが、コロナ感染によって隔離となると、更に症状の進行が速いと感じております。

現状、病院の体制は変わらず面会制限・個室管理に状態変わりありません。

今後も、在宅に戻ってからのサポートが重要になって来ると考えております。

他事業者の方々と連携しながら患者様とその家族をサポートしていけたら幸いです。

今後もよろしくお願ひ致します。

北坂戸訪問看護ステーション 管理者 武山 千加

次回開催は、12月中旬を予定しております。

